

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102483		
法人名	社会福祉法人 岐協福祉会		
事業所名	グループホーム 大洞岐協苑		
所在地	岐阜県岐阜市大洞3丁目3番地1号		
自己評価作成日	平成23年7月21日	評価結果市町村受理日	平成23年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102483&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山に囲まれた自然豊かな立地の中、地域の方との交流も徐々に深まりつつある。利用者それぞれが得意な事を意欲的に取り組まれ、外出がメインの多くのサークルや行事の中いきいきと生活されている。スタッフも日頃より『笑顔・言葉遣い・雰囲気作り』に心掛け、ケアプランを中心とした温かいケアを目標としている。併設の特養とは行事等での交流も多く、ホームでの生活が困難になった場合も臨機応変な対応が可能となっている。敷地内の畑やホームのベランダでは季節の野菜や草花を育てており、大きな金魚を飼い、ベランダには燕と雀が競うように巣を作り、時折犬も遊びに来る、歌と笑顔の絶えない賑やかなホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、山に囲まれ自然環境に恵まれている。同じ敷地内には、特別養護老人ホームとケアハウスが併設されている。夏祭りや行事などを合同で行うことにより、双方の馴染みの関係を築いている。利用者は、自由に外出し、自分の得意なことを主体的に発揮しながら、心地よく生きがいのある生活を営んでいる。重度化等への対応も、施設間の連携を密にしたバックアップ体制ができており、利用者・家族から安心が得られている。近隣の幼稚園児達がホームに遊びに来たり、法人施設を、住民のカルチャーセンターの会場として開放し、地域に開かれた交流拠点になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安 なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々とのふれあいを主とした、心地よい刺激のある日常生活の提供。	理念は、「利用者の主体性と円満な共同生活」を掲げ、毎朝ミーティングで確認している。地域の子供達や地元ボランティアの人達と日常的に関わりながら、利用者の主体性を支え、楽しく円満な暮らしを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域の夏祭りや近くの幼稚園の運動会・卒園式等に参加している。また地域の『ふれあいサロン』にも月1回参加している。	法人全体行事の「納涼祭」には、住民の参加があり、賑わっている。法人施設を、カルチャーセンターとして住民に開放し、気軽に利用してもらっている。近隣の幼稚園の年長組の子供達もホームに訪れ、利用者とは触れ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『ふれあいサロン』では地域の方とお話をしたり、一緒に体操をして交流を深めている。その際グループホームや特養について質問があり、お答えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険課・包括支援職員、自治会・民生委員代表、老人クラブ会長、幼稚園園長、家族代表の方々から意見を伺い参考にしている。	運営推進会議は、隔月に開催している。会議では、利用者と共に、絵手紙や押し花作りなどの行事を併せて行い、家族からの喜びの意見や参加者からの質問など、活発な意見が出されている。意見等は、サービスの向上に活かしている。	一定の家族代表だけでなく、他の利用者家族にも呼びかけ、何時でも会議に参加でき、意見や質問ができるような会議運営に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	平成22年9月より利用者の方も毎回参加いただき、市の担当者の方と直接ふれあい、実情をお伝えしている。	法人の便りを行政に送り、運営推進会議にも担当者の参加がある。相談事や利用者の暮らしぶり、事業内容を定期的に報告している。地域全体の福祉の向上について情報交換を行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入り口にセンサーを設置し、日中は施錠しない。苑内研修では、毎年勉強会もあり(次回は10/26予定)比較的高い意識で取り組んでいる。利用者の心身に危険が及ぶ時等、必要な場合は家族の同意を得て行う。	2階への扉は無施錠であり、自由に出入りでき、抑圧感がない。隣接する施設への行き来も自由である。身体拘束の研修も、年間研修計画で実施し、拘束のないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修等で全体の周知に努めている。		

岐阜県 グループホーム大洞岐協苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修等で全体の周知に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は『契約書』『重要事項説明書』等必ず口頭にて読み上げ、その都度質問を頂く。21年度の居住費値上げに関しては納得頂き、不満の声は聞かれなかった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では外部評価の評価票を示し、意見や質問を伺っている。また入浴は、スタッフと利用者が1対1でリラックス効果もあり、様々な意見が聞かれる。	意見箱の設置や、複数の相談苦情窓口を設けている。家族の訪問が多いので、訪問時に希望を聞いている。意見がより具体的に吸い上げられるよう、家族への満足度アンケートを実施する計画がある。	計画中のアンケートを実施し、家族の思いや要望をくみ取り、なんでも言ってもらえる関係づくりに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議では、スタッフが意見を出し話し合う。責任者はその意見をまとめ、事業責任者会議で施設長や管理者へ報告する機会がある。(時折理事長も出席)	職員の意見を聞き取るための仕組みとして、研修後に報告書の提出が、全員に義務付けられている。職員会議でまとめた意見は、漏れなく、事業所責任者会議で検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム内のサークル活動は、各スタッフが得意分野でリーダーになり進めている(手芸、書道等)。また、資格手当や業務改善提案制度が設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の苑内研修があり、参加後は報告書の提出を行っている。また認知症介護実務研修等の外部研修も順次受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会第一支部会や、外部研修への参加があり、そこで知り合った他のグループホームや介護保険施設の方と交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時には家族と離れた場所で話を伺っている。(ケアマネジャーと交互に)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15と同様に、ケアマネジャーと交互に家族のみと話す時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム以外のケアマネジャーとも連携し、相談の内容に応じた対応に努めている。以前要望があり、他事業所の有償移送サービスや付添ヘルパーサービス、訪問歯科を提供した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他県からの利用者が「(故郷に)帰りたい」「死にたい」と毎日の様に泣かれていたが、同郷のスタッフが偶然あり、方言で地元の話をする中で笑顔と安眠がみられる様になった。そのスタッフも更にやりがいを感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次報告や行事予定の毎月の送付や、家族の面会時には必ず声を掛け、情報の共有や関係を深めている。また受診は家族に依頼し、健康状態を双方で把握している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけだった喫茶店や思い出の場所へ出掛けている。友人の面会や絵手紙も度々ある。	利用者の友人が昼食を持って、度々遊びに来ている。地元の利用者が多く、昔からの商店やスーパー、喫茶店、近くの墓参りに職員が同行している。利用者の希望や行きたい場所への要望は、できるだけ叶えられるよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格上『合う・合わない』利用者を把握し、配慮している。また認知症の軽度の方が重度の方のお手伝いをされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に移られる方が多く、個人記録の提出等詳細な情報を伝えている。入院の場合状態の変化が大きくあり、求められる事が余りない。常に退居後の情報提供は可能にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース会議ではスタッフの意見を事前にまとめ、事業責任者・ケアマネジャー・受け持ち担当者が話し合う。ケアプランの他、日常生活の援助に反映させている。	利用開始時や日常の中で、本人と家族から、生活歴や家族背景を聞き取り、ケース会議で共有している。裁縫の得意な利用者には、布巾作り、他の利用者のズボンの裾直しやほつれの修繕を頼むなど、趣味や職歴を活かした支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のバックグラウンドアセスメント様式を利用し、徐々に利用者・家族との会話の中から更に情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の気づきや特記を日誌や申し送りノート、ADL記録ノート(食事・排泄・バイタル等の個別介護記録ノート)に毎日記載し、スタッフ全員が把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成の手順を踏みながら、状態の変化等に応じてその都度変更している。	介護計画の見直しは、3ヶ月に1回を基本にしている。かかりつけ医や、本人・家族の意見を担当職員が把握し、介護計画に加えて作成している。家族から新たな要望や、本人の状態に変化があれば、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ADL記録ノート作成し、日々の健康状態や心身の変化を記載。スタッフ共有の情報としている。また個別に『ケアプラン実施記録表』があり実践と結果は毎日把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの急な外出等も受け入れている。また突然「帰りたい」と言われる方があり、その都度家族に電話しお話ししてもらったり、迎えに来てもらったりしている(家族の了承)。		

岐阜県 グループホーム大洞岐協苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の『ふれあいサロン』に月1回参加。また地域のボランティアによるお菓子教室や絵手紙教室がある。近くの幼稚園との交流も盛んである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に継続してかかりつけ医(家族の送迎)の受診となっている。その都度、必要な情報は提供しあっている。	利用前からのかかりつけ医に、それぞれの家族が受診同行している。利用者の体調を日々把握し、支援に活かせるよう、医療の情報は、家族からその都度聞き取って、個別記録に記載している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火・金曜日、看護師による血圧測定と健康相談が行われている。利用者の体調に変化がみられた場合は、その都度内線にて報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院からの連絡にて、主治医・ケースワーカー・家族・事業責任者でカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアに関して行っておらず、今後も行う予定はない。また『常時車椅子生活』『常時医療が必要』『暴言・暴力により共同生活困難』等の退居基準を契約時や面会時にお伝えしている。	車椅子が必要になった場合、常時医療行為が必要になった場合などは、同法人内の他施設や外部の施設へ移るよう、契約時に説明している。	重度化と終末看取りは行わないことを契約時に説明しているが、症状に依り、段階的に関係者と方針を再確認することが望ましい。同意書の再確認にも配慮されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内研修として地元の消防署で救命救急やAED使用方法の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の立ち入り検査と避難訓練がある。災害避難準備品は、併設の特養に備えてある。	法人全体の災害訓練は、年に2回行っている。避難場所が敷地内にあり、避難誘導訓練を行っている。災害時に必要な食料や飲料水等の備蓄品は、隣接の特別養護老人ホームに備えてある。	災害時に機敏な誘導ができるよう、利用者と共に自発的なミニ訓練を行ったり、運営推進会議などで、避難訓練への参加や見守り等の協力が得られるような地域の人への働きかけに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理についての苑内研修もあり、また、殆どの方が会話による意思疎通が可能という事もあり、日々言葉遣いや話の内容には気を付けている。	比較的軽度の認知障害の人が多く、言葉による意思の疎通が可能である。言葉使いなどは、職員同士で互いの気づきを伝え、人格を尊重したケアに配慮している。居室への立ち入りは、本人の許可を得るなど、その人の居室であることを尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、おやつや飲み物を選択してもらっている。買い物も欲しい物を自分で選び、支払いを行える様援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴に関しては、一定の融通しか利かせられていない。感情に起伏があり、マイペースで過ごしたい方には合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容で好みを尋ねながら眉を描いたり、カットしたりしている。希望の方にはネイルも行っている。また今も行きつけの美容院に通う方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕食作りと毎食の片づけは、全て利用者で行っている。月に1度は地域の方によるお菓子教室もある。	利用者の希望を聞き、献立の参考にしている。調理の手伝いも、能力や好みを重んじ、野菜刻みや皮むき・料理の盛り付け・食器拭きなどを、手伝ってもらっている。食材等の買い出しも職員に同行し、材料選びも楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日摂取量の記録、月1回の体重測定、特養の管理栄養士によるBMI表の作成や助言、バックグラウンドアセスメントによる『好き嫌い』の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後は義歯を磨く介助、就寝前は義歯を預かり洗浄剤による消毒を行っている。自分の歯の方は歯磨きの声掛けや介助を行っている。		

岐阜県 グループホーム大洞岐協苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在おむつ使用の方はない。日中トイレ介助の方は2名、パット確認の方は1名。夜間ポータブルトイレ介助の方は2名、声掛けの方は1名ある。	職員のごまめな声かけにより、自力でトイレに行っている。排泄の自立度は、利用開始時と変わらず維持できている。排泄チェック表の記録により、変動があった場合は注意するよう、職員同士で配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のビデオ体操を行い、食物繊維食品や乳製品の提供に心掛けている。便秘で希望の方はその都度牛乳を飲んでもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに応じた間隔での入浴が基本であるが、希望されれば体調に考慮しながら入ってもらったり、逆に休んでもらっている。	入浴は隔日に行うが、希望によって、毎日入浴することも可能としている。季節に合わせた菖蒲湯やゆず湯などで、リラックスした時間を持つことで、利用者の過去歴や新しい気づきを得ることも多い。気づいた内容は、日々の支援や介護計画に活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情を見て声掛けし、周囲に気を遣わず休んで頂ける様配慮している。夜間眠れない方には、夜勤者が会話や飲み物を提供し入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬説明書を1冊のファイルにしている。毎日の服薬確認はADL記録ノートに記載しチェックしている。体調の変化や薬に関してかかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りの際、包丁使用可能6名、皮むき器使用可能全員で分担して作っている。また、1名希望にて朝食がパンとコーヒーである。一人ひとりの『得意・不得意』を把握し、余暇活動やサークルの参加も配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を重要視しており、ドライブ(花フェスタ記念公園・道の駅平成・竹鼻別院等)・買い物・ランチ・モーニング・散歩等、行先や必要性を判断して臨機応変に対応している。またリクエストにより急きょ『ファミレスでおやつ』もある。	日々の散歩や外出・外食・行事などは、積極的に行っている。季節や天候により、隣接する施設とつながる廊下の行き来や、玄関前で外気浴を行うこともある。月に1回は、日帰りドライブに出かけている。	

岐阜県 グループホーム大洞岐協苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は、財布を持って出掛けてもらう（金額の確認後）。心細い方は家族により、手持ちに少額の金銭がある。また家族には月次報告書で残高をお知らせしたり、面会時にお小遣い帳を確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話希望の方が2名あり、その都度付き添い、介助している。他の方も毎年、年賀状を家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの共用スペースは窓が大きく、前の山の木々が目に飛び込んでくる。ベランダやテーブルには花や緑が絶えない様に心掛けている。また菖蒲湯・七夕飾り・梅干し作り・柚子湯・ひな飾り等の行事や風習を大切にしている。	明るい共用空間は、キッチンとつながったリビングになっている。ソファや畳スペースなど、高さにも配慮し、くつろいで洗濯物などをたたむこともできる。ベランダの親子燕の巣を、利用者同士が声をかけあい、微笑ましく眺めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1ユニットでどの居室も居間の賑やかな声が聞こえる。一人居室で書き物をされる方や、数人で居間のテレビを楽しむ方もある。畳の間では、みなさんでお昼寝をする姿もみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具はもちろん、思い出の写真や家族の位牌を置かれている方もある。壁のカレンダーに予定を書き込まれたり、日記をつけられている方もある。	各居室の窓からは、緑豊かな風景が見られ、爽やかな風が通り抜けている。壁には写真や作品が貼られ、おのおのが持ち込んだダンスや椅子・ミニ机等の家具は、使いやすいよう配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行レベルに応じて、杖・シルバーカー・歩行器・手つなぎ介助等にて全員自力であるかされている。		